

# つくる会 FAX 通信

第 457 号 令和 5 年(2023 年)5 月 23 日(火) 送信枚 3 枚

TEL 03-6912-0047 FAX 03-6912-0048 <http://www.tsukurukai.com>

## 令和 5 年度定時社員総会を開催 「国賠訴訟」報告と来春の採択戦への指針が示される 新理事に安達弘氏を選出、新副会長に松浦明博氏が就任

新しい歴史教科書をつくる会は、5 月 20 日、東京・ホテル機山館会議室において、令和 5 年度定時社員総会を開催しました。

コロナ禍明け後、初の総会となりましたが、全国より 44 名の正会員が出席しました。

開会に先立ち、国歌君が代が斉唱され、続いて昨年 11 月に逝去された当会顧問の加瀬英明先生へ黙祷が捧げられました。その後、越後俊太郎事務局長より「開会成立宣言」が、また事務局の平田由香氏による「設立趣意書」の朗読が行われました。

そして高池勝彦会長より開会の挨拶がありました。高池会長は、現在のウクライナ戦争を通じて、日本人もようやく中国など安全保障面の脅威を認識するようになったが、「教科書」問題はまだまだ理解されていない。当会としては、今後も教科書問題をはじめ、国の重要な問題にはしっかり声を上げていくと決意を述べ、出席者に今後の結束をお願いしました。また、祝辞をいただいた杉原誠四郎顧問は、採択を勝ちとるために遠慮なく、なりふり構わずやりたいという強い意思と覚悟が表明されました。

ここからは議長に選出された荒木田修理事より議事を進行。まず第 1 号議案「役員選任の件」では、高池会長より、新理事として安達弘氏(NPO 法人歴史人物学習館理事)が提案され、承認されました。新理事の挨拶に立った安達理事は、「2 年前まで横浜で教員をやっていたので、現場にいた強みを生かしてお役に立てればと考えている」と決意を表明しました。また、高池会長より、総会に先立って開催された理事会において、松浦明博理事が新たに副会長に選出されたことが報告されました。

第 2 号議案「令和 4 年度事業報告及び決算報告承認の件」では、まず、皿木喜久副会長より、事業報告が行われ、続いて、補足説明として、藤岡信勝副会長、海上知明理事、澤井直明三多摩支部長、高池会長の 4 氏から「違法検定」の分析と国賠訴訟の進捗状況の報告がありました。その後、決算報告を越後事務局長、監査報告を尾崎幸廣監事が行い、いずれも満場一致で承認されました。

第 3 号議案「令和 5 年度事業計画(案)及び予算(案)承認の件」では、松浦新副会長より事業計画が提案され、補足として、諸橋茂一理事より来春の採択戦に向けた指針が示されました。続いて越後事務局長より予算案が出され、その後、採択の取り組みに関する複数の質疑応答の後、こちらも全会一致で承認されました。なお、今年度の取り組みの一つとして、今後、会員減少に歯止めをかけ、増大に転じるための「会員拡大キャンペーン」が展開されます。具体的な方針等が固まり次第、本部より発信する予定です。

第4号議案「国民へのアピール（案）」（別紙）は松木國俊副会長によって朗読され、会場からの大きな拍手をもって採択されました。

最後に閉会の挨拶に立った茂木弘道副会長は、今回の文科省の検定がいかにも理不尽でデタラメなものであるかを、もっと国会議員の多くの先生にわかってもらう必要があると強く訴えました。さらに、来年の採択実現に向けて、自由社の教科書が最も良いことをまず採択関係者に理解してもらうため、具体的に取り組みをしっかりと進めていこうと訴え、閉会となりました。

## 各氏スピーチに盛り上がった「懇親の集い」

総会后、同会場で開催された「懇親の集い」には、多くの国会・地方議員や支援者が参加してお祝いの言葉やスピーチをいただき、例年にも増して活気ある楽しい会合となりました。

本総会ならびに「懇親の集い」開催にあたり、議事進行にご協力いただいた皆様、スピーチをいただいた皆様、また祝電・メッセージ、花輪をお贈りいただきました皆様には心より御礼申し上げます。

当会はこの総会を機に心を新たに、来春の採択戦で結果を出せるよう、会一丸となって各取り組みを進めてまいります。会員、支援者の皆様には、どうか引き続きのお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

### <「懇親の集い」スピーチ>

桜田義孝（自民党衆議院議員）、田母神俊雄（第29代航空幕僚長）、村松英子（女優）、奈良俊幸（中田宏・自民党参議院議員代理）、大島康之（山田宏・自民党参議院議員代理）、中村実（千葉県議会議員）、折本龍則（千葉県議会議員）、田中ゆうたろう（杉並区議会議員）、飯島隆史（（公社）国民文化研究会事務局長）、沢辺孝雄（産経新聞論説副委員長）、田中秀雄（日本近現代史研究家）、家村和幸（日本兵法研究会会長）<敬称略・発言順>

### <祝電・メッセージ・花輪>

義家弘介（自民党衆議院議員）、杉田水脈（自民党衆議院議員）、松沢成文（日本維新の会参議院議員）、山谷えり子（自民党参議院議員）、西田昌司（自民党参議院議員）、佐藤正久（自民党参議院議員）、土屋たかゆき（元東京都議会議員）、西川京子（元文部科学副大臣）、荒木和博（特定失踪者問題調査会代表）、今井光郎（（一社）今井光郎文化道徳歴史教育研究会代表理事）、葛城奈海（やおよろずの森代表）、黒沢博道（（公社）富士社会教育センター元副理事長）、佐波優子（戦後問題ジャーナリスト）、千保一夫（（一社）日本を愛する栃木県民の会会長）、二階堂正宏（漫画家）、馬淵睦夫（元外交官）、水島総（日本文化チャンネル桜社長）<敬称略>

## 国民へのアピール

統一地方選挙の真ただ中の4月15日、和歌山での岸田首相殺害未遂事件は、昨年の安倍元首相暗殺事件から一年も経たない中で起きたこともあり、日本中に大きな衝撃を与

えました。

日本の選挙戦の街頭演説では要人であっても、集まった大衆の中に自ら入っていき、握手をするというのが定番ですが、それは外国ではあり得ないことです。これは日本人の持つ平和的な気質と風土があって成り立ってきたものですが、事件が立て続けに起きたことで、今後はそういった風景が次第に見られなくなるでしょう。また一つ、日本の良さが失われていくことに寂しさを覚えます。

今回の事件を起こした容疑者については、動機などが殆ど解明されていませんが、報道を見る限り、どこか安倍首相暗殺事件や、10年以上前に起きた秋葉原無差別殺傷事件の容疑者を想起させます。これらの人物に通ずるのは、社会にうまく適合できず、職が安定していない若者であることです。彼らは、自分の人生がうまくいかないことを社会のせいにして逆恨みし、最後は無関係な人に危害を加えます。彼らを凶行に走らせた背景には、彼ら自身に「守るもの」、「失うもの」がないことがあるでしょう。

なぜ彼らのような若者が社会から生み出されるのか。そこにあるのは、日本社会における「縦軸（歴史・祖先）」と「横軸（国家・共同体・家庭）」の概念の喪失に他なりません。もし彼らが、若い頃からこれをしっかりと教えられていれば、自分の存在が尊い歴史を受け継ぎ、また家族や社会の助けの中で成り立っていることを理解したでしょう。そうすれば自分自身は勿論、家族、周囲の人をもっと大切にしたでしょう。そこには必ず「守るもの」があったはずです。その意味においては、彼らもまた、戦後教育の被害者であるとも言えます。

私たちの推進する自由社の『新しい歴史教科書』『新しい公民教科書』は、まさにこの人生における「縦と横の軸」の重要性、「生きること」の意義を学ぶことを目的としています。このような社会だからこそ、私たちは今後も、教科書を出し続けなければなりません。

この4月より文科省で中学校用教科書の検定が始まり、自由社も歴史・公民教科書を申請しました。そして、検定合格後の来春以降は採択戦が控えています。

この私たちの最大の取り組みである、教科書制作と採択活動には、最低でも二千六百万円の資金が必要となります。これは私たちの運動に共鳴、賛同していただく皆様からのお力添えなくしては成り立ちません。

国民の皆様におかれましては、私どもの運動にご理解をいただき、目的遂行のための篤きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和5年5月20日

一般社団法人新しい歴史教科書をつくる会  
令和5年度定時社員総会